

山形市立高楯中学校区 「特別支援合同音楽療法」

■ はじめに

「高楯地区三校連絡会」は、高楯中学校区の小中学校の全教職員で組織されており、子どもたちのより良い成長をめざし、長年にわたり活動を行っている。ほぼ同じ規模の小学校2校から中学校に進学してくるので人数的な規模からも連携がしやすい環境である。

■ 特別支援合同音楽療法の実践

平成18年から実施されており、今も年3回の交流会を行っている。ねらいは、特別支援学級の子どもたちが音（音楽）を楽しみながら、心をひらいて交流を深めることにある。

この取組は、3学期（1～2月）に高楯中学校の特別支援学級で開催する音楽療法の時間に、小学生も合同で参加する形をとっている。もともと高楯中学校が単独で行っていたものに、小学校が参加するような形で始まり、現在も続いている。講師の工藤恭子先生は老人ホームなどでも活動している専門家で、交流会の時には毎回、子どもたちが喜ぶような、いろいろな楽器を準備してくる。



試行錯誤しながら、子どもたちに合わせた様々な活動を工藤先生が仕組んでくれています。
楽器をならしたり、音楽に合わせて体を動かしたりします。

■ 取組を行って

- 特別支援学級の子どもの中には音楽が好きな子が多く、楽しんでいる。
- 音楽を通して、中学校を身近に感じているようで、毎年楽しみにしているようである。小学校の先生からの評価も良い。

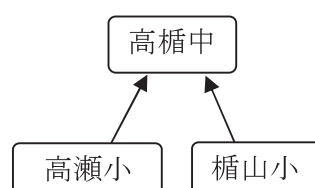
■ まとめ

特別支援教育における小中連携に、音楽療法を取り入れることで、子どもたちが楽しみながら中学校という場所に慣れていくということが、この取組への取材を通してわかった。小学校から中学校への滑らかな接続を意識しながら、特別支援教育の活動としても成立している点が工夫されている。

□ 学校基礎データ（平成24年度）

学校名	児童生徒数（学級数）
山形市立高楯中学校	216名（9学級）
山形市立高瀬小学校	188名（8学級）
山形市立楯山小学校	222名（10学級）

<単一複連携>



高畠町立第三中学校区

「家庭学習の手引き、食育、全体交流会等による連携」

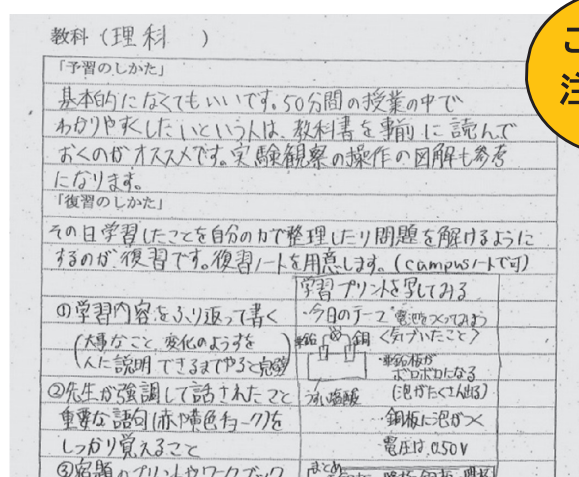
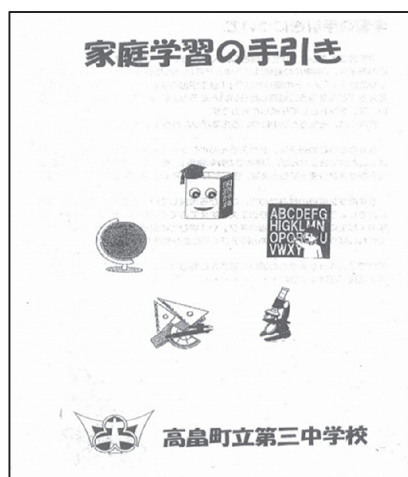
■ はじめに

平成28年度に町内の中学校が1校に統合されることが決まっている。高畠町立第三中学校区では、高畠三中、和田小、亀岡小の3校の校長、教頭、教務主任で構成する「三中校区連絡協議会」で連携の全体計画を審議し、9年間で子どもたちを育てていくという共通理解のもと、具体的な連携が行われている。

主なものは、生徒による「家庭学習の手引き」作成配付、「弁当の日」の実践、「みんなで育てよう地域の子」ポスター作成全戸配付、「三中校区全体交流会」の実施、「音楽・英語・体育等の出前授業」の実施等である。

■ 生徒がつくる「家庭学習の手引き」の実践

「中学校の勉強はどうやったらいいんだろう」という疑問に答える形で、高畠三中の生徒が中心になり先生方のアドバイスを受けながら、「予習や復習の仕方」「ノートを取り方」「自主学習のまとめ方」などについて学習の手引きとしてまとめた。昨年度から小学校に配付し、さらに今年度は、これをもとに小学校でも手引きを作成する予定である。



ここに
注目！

食育「子どもがつくる弁当の目」の実践

三中校区連携事業の1つとして、子どもが弁当をつくって集い、会食を行った。また、中央講師を招いての講演会を行い、子どもの成長のために子ども、親、教師がどうかかわっていけばよいか、どんな変化が生まれるかを学んでいく実践を行った。高畠三中を会場に、三中の生徒と保護者、和田小、亀岡小の5年生以上の親子が希望参加で行われた。食育を通して、親子の絆、地域の絆を育み、感謝の心と生きることの根源にかかわる考え方を学ぶ機会となった。

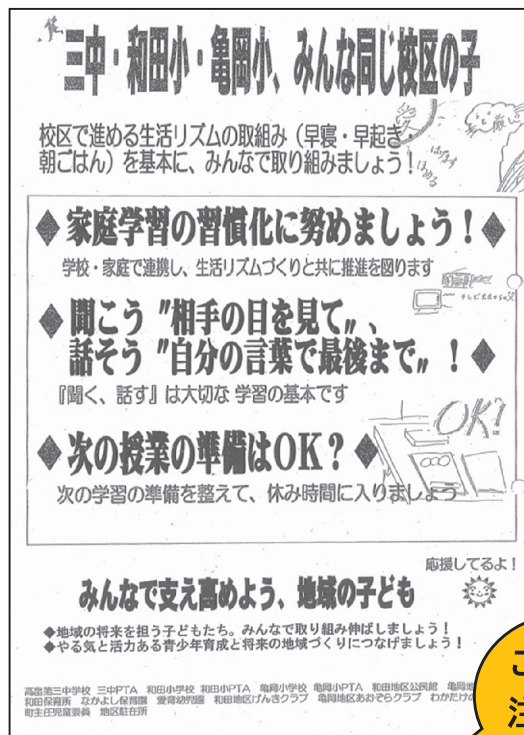
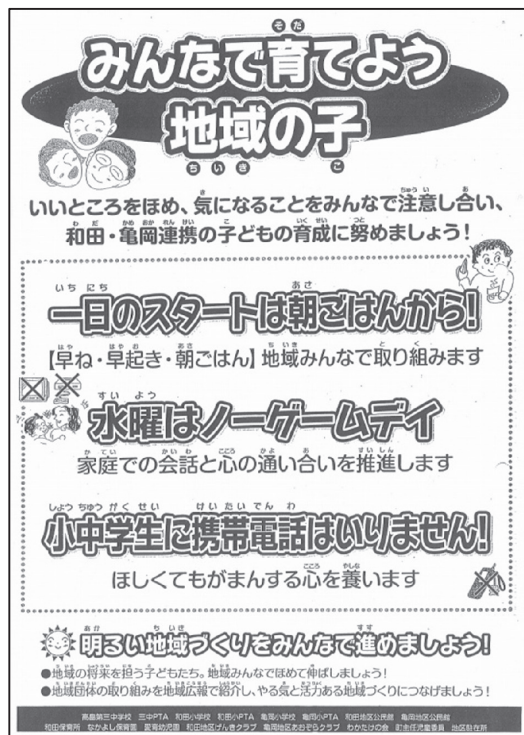
■ 「三中校区全体交流会」と「出前授業」の実践

「三中校区全体交流会」は、高畠町立第三中学校校区の３つの小中学校の教職員とＰＴＡが授業参観と分科会を通して、子どもをどう育てていくか意見を交換しながら交流を深め、ともに育てる大人として共通の意識を醸成する場となっている。

また、出前授業では、音楽・英語・体育などを中心にしながら、高畠三中の教員が小学校に出向き授業を行い、各小学校の6年生の心構えをつくるのに役立てている。

■ 「みんなで育てよう地域の子」ポスター作成・全戸配付の実践

三中校区PTA懇談会は、学校・PTA・公民館・保育園・学童保育・わかたけの会・主任児童委員・地区駐在所などが構成員となって組織されている懇談会で、平成20年から毎年、その年毎に共通の教育目標を定め、「みんなで育てよう地域の子」のポスターを作成して全戸配付し、地域で子どもを育てる意識の啓蒙を続けている。



ここに
注目！

■ 取組を行って

- 全体交流会での授業参観、その後の研究協議、出前授業、校内研修会における講師派遣等の連携を通して、お互いの顔が見える関係を築きあげ、共通理解のもとに指導を行うことができるようになった。
- 小中連携が単なる話し合いに終わらず、具体的な活動がしっかりと位置付けられているので、反省を加えながら年々改善が図られてきている。
- 「家庭学習の習慣化」を小中学校が連携して進めるとともに、家庭の協力も呼びかけているがまだまだ十分であるとはいえない。
- 生徒指導についての情報交換、連携強化を図っていきたい。

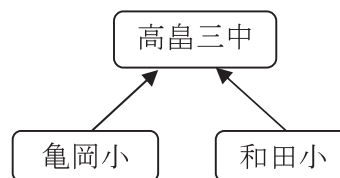
■ まとめ

既存の組織を活用して、保護者や教師同士の共通理解を深めながら、地域みんなで9年間の子どもの育ちを支えていこうとする着実な活動で小中連携が図られてきている。

□ 学校基礎データ（平成24年度）

学校名	児童生徒数（学級数）
高島町立第三中学校	141人（7学級）
高島町立和田小学校	177人（7学級）
高島町立亀岡小学校	88人（8学級）

<単一複連携>



村山市立葉山中学校区

「葉山中学校区子ども交流事業」

～進学前の児童同士のつながりをめざして～

■ はじめに

村山市では、少子化に伴い、最上川以西3校が平成16年に葉山中、以東3校が平成17年に楯岡中にそれぞれ統合され、現在は2つの中学校となっている。

統合がスムーズに行われるよう様々な取組がなされたが、その1つとして、それぞれの中学校区において、子ども会育成会が中心になり「子ども交流事業」が実施された。同じ中学校に進学する小学6年生が全員集まって交流し、中学校進学前にお互い顔見知りになることをめざした事業である。中学1年生のみならず、2年生、3年生を含む全学年の生徒がこの事業を経験して統合を迎えられるよう、期間は統合までの3年間という計画で実施された。

葉山中学校区では、統合後、中学校の生徒会が主催するなどの様々な形で継続されたが、一旦、諸事情により中止となっていた。しかし、ぜひ復活してほしいとの要望が多く出され、PTAや子ども会育成会を中心に「葉山中学校区子ども交流実行委員会」を立ち上げ、現在も継続して行われている。

■ 実践

○ 実行委員会

この事業を復活させるにあたり、実行委員会が組織された。構成メンバーは小中学校のPTA会長・副会長・学年委員長、市連合子ども会育成会役員等で構成されている。本事業が次年度以降も継続して行われるよう、次期会長候補者や小学校の5学年委員長も組織に加わっている。

<実行委員会組織>

役 職	所 属・役 職
実行委員長	葉山中PTA会長
副実行委員長	葉山中PTA副会長（次期会長候補者）
実行委員	各小学校（大久保小・富本小・戸沢小・富並小）PTA会長・6学年委員長・副委員長・5学年委員長等から3名ずつ
事務局	市連合子ども会育成会

ここに注目！

- 副実行委員長は、次年度、実行委員長を務めることになっている。また、実行委員には各小学校の6学年委員長だけでなく5学年委員長等にも入ってもらっている。この事業が単発で終わることなく、次年度以降も継続して実施しやすいよう配慮がなされている。
- 会議は年2回に精選し、負担のないように運営されている。



また、村山市教育委員会が共催となり、生涯学習課が事業全体の事務局として支援している。

できるだけ実行委員の負担を減らすために、会議の内容や回数を精選し、2回の話し合いで済むようにしている。会議の内容としては、交流会運営の確認といった事務的なことのみならず、児童がより良く交流するための配慮についても議論がなされている。

さらに交流会の会場となる体育館に移動し、交流会当日に行うレクリエーション（ドッジビー）を体験し、運営や安全面の配慮等の確認も行うなど、これまでの経験を踏まえた改善がみられる。

○ 「子ども交流事業」の様子

例年、12月第1日曜日に、葉山中学校体育館を会場に実施している。

運営は、実行委員会その他、子ども会育成会から当日スタッフ（平成24年度は6名）の協力を得て行っている。



実行委員が集合し、打合せを行っています。

生涯学習課担当者を中心に当日の流れを確認中です。

各小学校（大久保小、富本小、戸沢小、富並小）の6年生が、葉山中のスクールバスで集合します。



葉山中学校の体育館に向かいます。
今年は雪になりました。

初めはまだ緊張している様子で、体育館の四隅に離れて集合していましたが、徐々にうちとけて一緒に遊び始めました。

